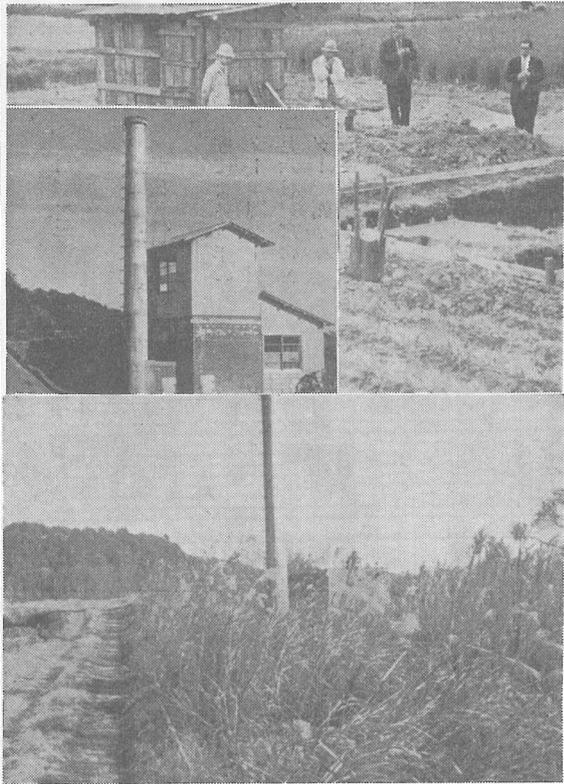


十年一昔 (その十二)

一両国渡しと焼却場跡境界

古川から於幾に通ずる道路が両国新田に掛ろうとする手前、栗山川堤の中を望見すると、栗山川堤の裾に一本の煙突が目につきます。その足下の枯草の中には、煉瓦造りの炉も見えていますが今は使っていないらしくてここ数年来煙突の煙が全く見えません。

これは、横芝町塵芥焼却場の跡なのです。いまから約十年前、ようやく物資が豊かになり、一寸と人家から離れた空地や道路の端等には、廃品やごみの無断投棄が続出し、



いくらか禁止の標識を建てても無駄でした。そのうちに「何とかして欲しい」「何とかしなればならない」「町としても考えるべきだ」という話を持ち上り町議会でも議題として採択し町営の塵芥焼却場設置が定まったのです。しかし、施設が施設であるだけにその場所の選定についての苦労は大変でした。当時、町議会の厚生常任委員として終始用地折衝等に尽力されたという大沢丈夫さん(古川)は、その当時の模様を「始め栗山の東町寄りに候補地を挙

げたのですが人家が近すぎるといので古川の砂取場に定めようとしたのです。ところがここは一二六号新国道に掛るので駄目になってしまいました。今度は東部土地改良一号用水路下辺りを物色したのですがこれも中止になりました。その中に古川地先に格好の場所があるというので調べて見ますと思いがけない近くまで住宅が建て込んで来ていたりして仲々思う様に行かず一時は中台の山の中という話も出た程でした。ようやく両国渡しというところに焦点を絞りましたが、建設用地は両国新田でも、そこ迄の路は古川になっております。この路がまた昔から古川地域には由緒ある路と考えられていたものから『ゴミ焼却場』にするのは忍びない」とい

う住民感情とでもいってか何かが堪えられないものもあつたようです。それでも皆さながら町の為という事で全面的に協力していただいてたのでここに落付いたのです。

「そんな風に話しております。そういえば焼却炉が出来たばかりの頃、焼却炉に往く路が二つに岐れる所に伊勢詣りの記念碑の様な道標が建っていました。焼却炉の方面側には「両国渡し」、八日市場側は「銚子」道、また両国新田側には「さか田」山なり田道と、漢字と仮名を交えた文字で刻んであったのを覚えております。この道標は、本欄で古川の地蔵様として紹介したところのある鈴木昇さん(古川)が保存しているという事です。何れにしても、何れも何れも重ねて誕生した塵芥焼却場だった訳ですが、日を追って激増する塵芥量は消化しきれず、遂に昭和三十七年以來四ヶ年間の操業を停止し、昭和四十一年山武郡環境衛生組合にパトナッチを譲渡したのです。閉鎖後既に四年、今でもここに塵芥を捨てに来る人があり、近くの田畑が迷惑をしているようです。写真、上は四十六年に焼却炉の基礎工事を始めた時のもので、大沢さんに向って右から二人目、他見慣れた人の姿も見えます。左下の枠内は完成時の焼却炉です。下は現在の焼却炉跡で、背景になっている下総の山の姿も足下の栗山川の流れも、十年前の姿と殆んど変わらないと思えますが、伸びきった枯草の中に自分の存在を誇示する様に白い姿を見せようとする煙突には過去十年の横芝町の物資豊乏の歴史が秘められているのです。

謹賀新年

横芝町教育委員会		横芝町選挙管理委員会		横芝町役場	
委員長 石橋 瑞夫	委員 椎名 弥一	委員長 早川 恂	委員 伊藤 壮男	町長 椎名 登	助役 真行 寺
委員 越川 藤一	委員 伊藤 祥嗣	委員長職務代理者 嘉瀬 源貞	委員 嘉瀬 源貞	収入役 土屋 直勝	総務課長 小高 猶次
委員 渡辺 祥嗣	委員 伊藤 藤一	横芝町農業委員会	会長 伊藤 博	企画課長 小高 猶次	建設課長 川島 茂
委員 石橋 瑞夫	委員 越川 藤一	副会長 伊藤 博	副会長 伊藤 博	収入課長 小高 猶次	税務課長 川島 茂
委員 渡辺 祥嗣	委員 伊藤 藤一	委員 桜井 敏雄	委員 桜井 敏雄	産業課長 石井 富雄	住民課長 佐瀬 哲司
委員 渡辺 祥嗣	委員 伊藤 藤一	委員 川島 喜久夫	委員 川島 喜久夫	老人ホーム院長 本間 重寿	住民課長 佐瀬 哲司